

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成 18 年 1 月 5 日 (2006.1.5)

【公表番号】特表 2001-520037(P2001-520037A)

【公表日】平成 13 年 10 月 30 日 (2001.10.30)

【出願番号】特願 2000-517068(P2000-517068)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

A 6 1 K 48/00 (2006.01)

C 1 2 N 9/12 (2006.01)

C 1 2 Q 1/68 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

A 6 1 K 48/00

C 1 2 N 9/12

C 1 2 Q 1/68 A

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 10 月 20 日 (2005.10.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 図 1 の核酸配列（配列番号 1）の 66 位～1694 位に示される核酸配列を有する、H C D S 1 をコードする単離された核酸。

【請求項 2】 図 2 のアミノ酸配列（配列番号 2）を有するタンパク質をコードする、あるいはその機能的同等物または該タンパク質の生物前駆体をコードする単離された核酸。

【請求項 3】 D N A 分子であることを特徴とする請求項 2 に記載の核酸。

【請求項 4】 前記 D N A 分子が c D N A であることを特徴とする請求項 3 に記載の核酸。

【請求項 5】 図 1 の核酸配列（配列番号 1）の 66 位～1694 位に示される核酸配列を有する請求項 3 または 4 のいずれかに記載の核酸、あるいは該核酸の相補体、あるいは緊縮条件下において該核酸にハイブリダイズすることのできる配列、あるいはその相補体。

【請求項 6】 緊縮条件下において、請求項 1～5 のいずれかに記載の核酸とハイブリダイズすることのできる配列を含むアンチセンス分子。

【請求項 7】 前記核酸は、ヌクレオチド間連結修飾、ヌクレオチド塩基修飾、ヌクレオチド糖修飾、非放射性ラベル、核酸架橋、およびペプチド核酸修飾からなる群より選択される修飾を含むことを特徴とする請求項 1～6 のいずれかに記載の核酸。

【請求項 8】 癌または他の増殖性疾患の治療において使用するための、請求項 1～7 のいずれかに記載の核酸。

【請求項 9】 医薬品の製造において使用するための、請求項 1～7 のいずれかに記載の核酸。

【請求項 10】 医薬品の製造において使用するための、請求項 1～7 のいずれかに記載の核酸の使用。

【請求項 11】 請求項 1～7 に記載の核酸を、薬学的に許容しうる担体、希釈剤ま

たは賦形剤とともに含む薬学的組成物。

【請求項 1 2】 請求項 1～7 に記載の核酸を、薬学的に許容しうる担体、希釈剤または賦形剤とともに含む薬学的組成物の、癌または本願明細書に実質的に記載された他の増殖性疾患の治療のために使用する医薬組成物の調製のための使用。

【請求項 1 3】 生物試料中に請求項 1 の核酸が存在するか否かを検出する方法であって、該方法は、前記試料を、ハイブリダイゼーション条件下において、請求項 1～7 のいずれかに記載の核酸を含むプローブと接触させることと、前記プローブと前記試料中に存在する核酸との間に形成された二重らせんまたは三重らせんの存在を検出することを含むことを特徴とする方法。

【請求項 1 4】 L M B P 3 7 0 8 の同定特性を有する単離されたプラスミド。

【請求項 1 5】 L M B P 3 7 1 0 の同定特性を有する単離されたプラスミド。

【請求項 1 6】 L M B P 3 7 0 9 の同定特性を有する単離されたプラスミド。